iTesting
Study

印刷・活用 見開き資料

【従来】の保健所と【iTesting】での性感染症検査との違い（簡略図）

【従来の場合】

【検査日】
●各保健所に直接出向く

（コロナ禍の課題）
三密になるのが
心配だな…

【検査日】
●検査の説明・相談

【検査日】
●職員が採血をする

（コロナ禍の課題）
新型コロナウイルス
（SARS-CoV-2）
感染症対策により、
各保健所HIV検査の
マンパワーが不足…

医療機関で血液検査

【結果日】※1～2 週間後
●職員との対面相談

（コロナ禍の課題）
検査日と結果日
最低 2 回の来所が必要…

【結果日】※1～2 週間後
●医師による対面結果告知

（コロナ禍の課題）
医師が対面で結果告知

【HIV 陽性反応の場合】
●確認検査施行後、紹介状の発行

【iTestingの場合】

【検査日】
●ウェブから予約してIDを取得
●検査会場受付でIDを提示

（POINT）
いつでもどこからでも
予約ができる

【検査日】
●検査の説明および同意は、
タブレットを使って行う

（POINT）
新型コロナウイルス
（SARS-CoV-2）
感染症対策を徹底した
アウトソージングによる
感染リスクの最小化と
保健所業務の効率化
※保健所以外の場所でも
検査の施行が可能

【検査日】
●郵送検査キットの使用
●ランセット針で自己採血
●検査会場内投函箱へ提出

まとめて検査会社へ郵送
→検査会社で血液検査

【結果日】※3 営業日以降
●予約 ID パスワードを入力して
ウェブで検査結果を確認

（POINT）
ウェブ確認で、
誰にも知られることがない

【結果日】※3 営業日以降
●メール・チャット・電話で
検査会社や支援団体と相談も可能

（POINT）
自分にあった
相談方法の選択が可能

【HIV 陽性反応の場合】
●確認検査施行後、紹介状（PDF）の発行

●HIV スクリーニング陽性
→名古屋医療センターまたは、
各保健所へ確認検査の受検案内

●梅毒・HBV・HCV 陽性
→名古屋医療センターまたは、
適切な医療機関への紹介状を発行

【iTesting】会場での感染症対策（ポイント）

❶ マスクの着用（サージカルマスク・布マスクなど）

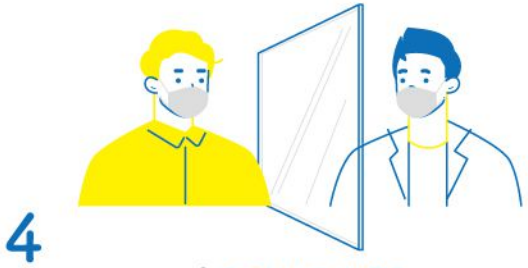
安全確保のため、健診の遂行上、特に必要のある場合を除き、健診会場ではマスクの着用を原則。マスク不足が深刻な折、受検者のマスクは原則として受検者に用意。マスク着用がない場合は健診受検不可。

❷ アルコール消毒・清拭の徹底

会場入り口だけでなく、受検者が座るテーブルにも一つずつ消毒液を設置。また受検者が触れる箇所を定期的に消毒、各受検者が検査終了するたびに、机、タブレット全て清拭。

❸ 会場入り口での体温測定

会場入り口での健診受付後、速やかに問診・体温測定を行い健康状態を確認。37.5度以上の発熱があるなど不適当と判断した場合は、説明した上で、後日、体調が回復してからの受診を促す。



❹ アクリルパネルの設置

受診者とスタッフの間には各テーブルにアクリルパネルを設置し、対面で話す際は、適切な距離を確保するよう配慮。会場入り口にも設置。

❺「密集・密接」の回避

受検者間の距離を確保するとともに、健診に要する時間を可能な限り短縮。
●密集・密接を避けるため、インターネット予約システムによる完全予約制。
●各受検者の距離は2m以上あける。
●受検者の一日の予約者数、予約時間などを調整。

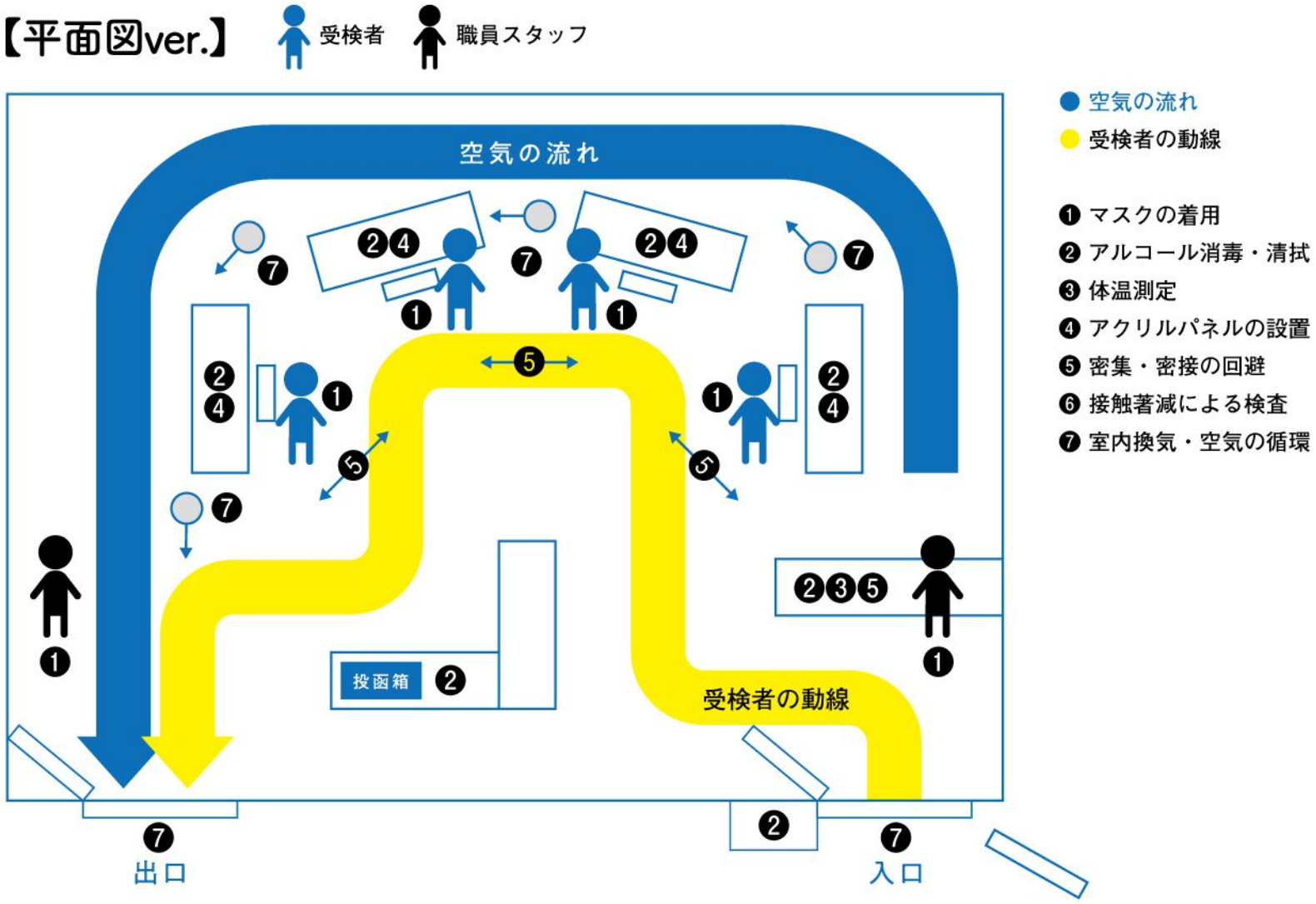
❻ 接触著減による自己完結型の検査

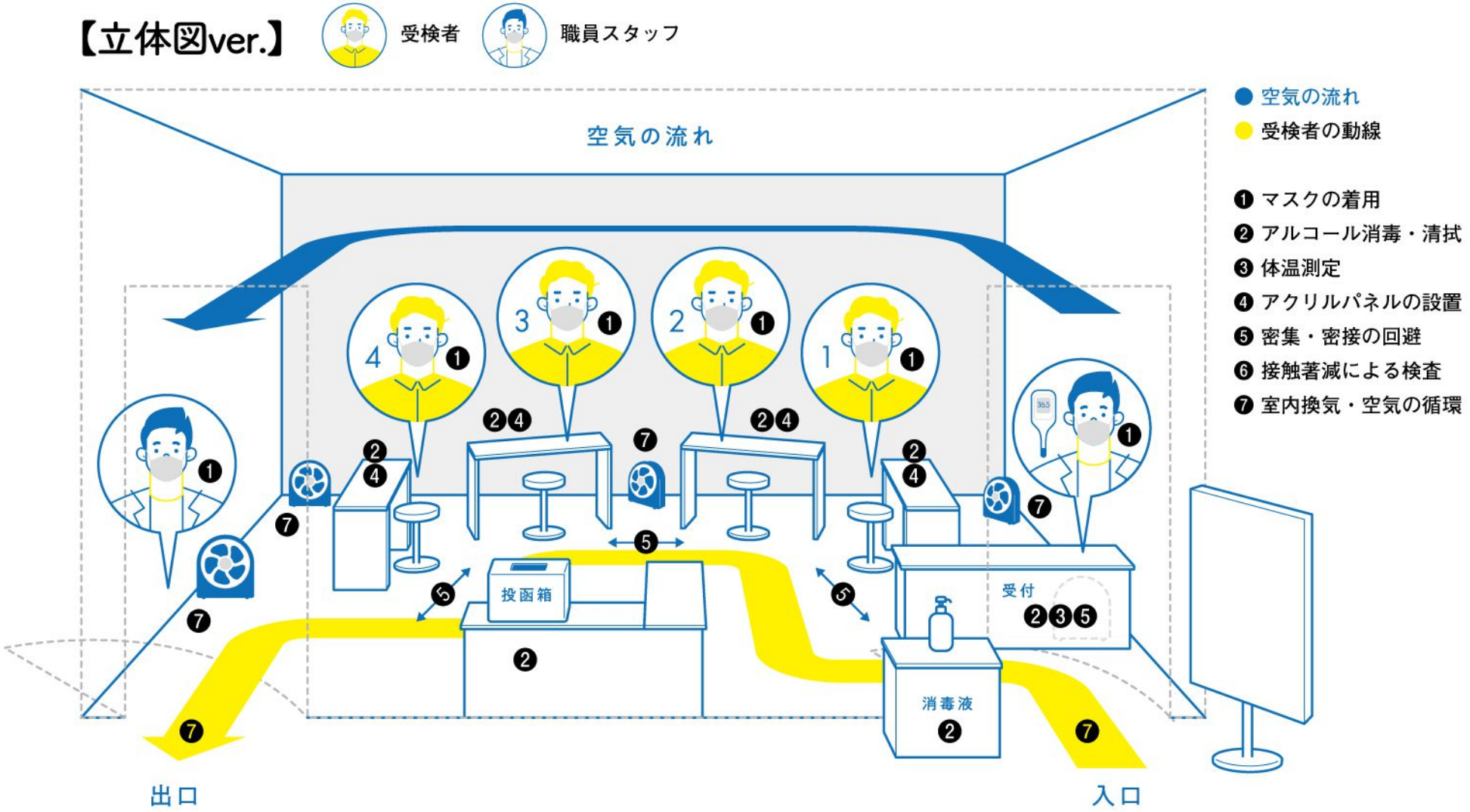
●郵送検査キットを使用した自己採血。終了後、投函箱へ提出。
●アルコール消毒可能な端末（タブレット）の使用。一人当たりの検査開始から終了までの時間の中央値は22分。30分あたりタブレットの台数分、予約枠を確保。

❼ 室内換気・空気の循環

室内の換気は一時間に2回以上定期的に窓やドアを開けるなど行う（ただし、機械式換気装置が稼働し、十分な換気量が確保されている場合を除く）。また部屋のドアは常時開放し、室内にサーキュレーターを設置するなど空気の循環を促す。

【iTesting】会場での感染症対策（会場配置図イメージと動線）



【iTesting】会場での感染症対策（会場配置図イメージと動線）

【立体図ver.】